

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 4 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23320136

研究課題名(和文) 会沢正志斎書簡の研究

研究課題名(英文) A study on the letters written by Aizawa Seishisai

研究代表者

飯塚 一幸 (Iizuka, Kazuyuki)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：50259892

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,000,000円、(間接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、大阪大学文学研究科日本史研究室が所蔵する湯浅文庫の中にある、近世後期水戸学の大家会沢正志斎の書簡を翻刻し、『会沢正志斎書簡集』の刊行を目的とした。研究期間中に東京大学資料編纂所で発見された会沢正志斎書簡の写本も、湯浅文庫の一部であることが判明したので、これらも書簡集に含むこととした。すべての書簡の翻刻は終えており、出版へ向けて再校原稿を返却したところである。また、これらの書簡を通して、(1)幕末の水戸藩の政治的動向を再検討し、(2)会沢正志斎を取り巻く人的ネットワークの解明も進めた。その成果は、書簡集の解題として公表する予定である。

研究成果の概要(英文)：Yuasa Bunko Library, being in the possession of Osaka University Graduate School of Letters, includes nearly 400 letters written by Aizawa Seishisai, a master of Mitogaku. The aim of this study is to reprint these letters and publish the Collection of Letters Written by Aizawa Seishisai. During the study period, we found that the manuscripts of the letters written by Aizawa Seishisai that are in the possession of the Historiographical Institute of the University of Tokyo are also part of Yuasa Bunko Library. We have therefore decided to also incorporate these letters into the collection of letters. A reprint of all the letters has now been completed. Through these letters, we have also (1) reviewed the political trends in the Mito Domain at the end of Edo period and (2) further clarified the network of personal contacts around Aizawa Seishisai. We are planning to publish the outcome of this review and clarification as a bibliographical introduction to the collection of letters.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：近世史 思想史 水戸藩 水戸学 会沢正志斎

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 水戸藩士会沢正志斎(天明元年~文久3年)は、後期水戸学を代表する儒学者である。会沢が文政8年に著した『新論』は、近世後期から幕末にかけて広く読まれ、攘夷論に多大な影響を与えた。一方、徳川斉昭の傳育役として斉昭の藩主擁立に奔走し、斉昭の下で藩政改革に従事、郡奉行・弘道館教授頭取などを歴任した。その後、一時謹慎の身となったが復職、安政5年の戊午の密勅問題を契機として水戸藩改革派が「激派」と「鎮派」に分裂すると、「鎮派」の中心人物として活動するなど、政治家としても重要である。

(2) これほど著名な人物であるにもかかわらず、会沢正志斎に関する史料は、『新論』をはじめとしたまとまった著作、会沢正志斎の甥で門人であった寺門謹が後年編纂した『会沢正志斎文稿』(名越時正の編集により2002年に国書刊行会から出版)などはあるが、公刊された書簡などは少なく全集も出ていない。『茨城県史料 幕末編』~(茨城県、1971・1989・1993年)の編纂を終えた現在においても、こうした状況に大きな変化はない。本研究による『会沢正志斎書簡集』の刊行は、会沢を取り巻く史料環境を一挙に改善することは間違いない。

## 2. 研究の目的

(1) 大阪大学文学研究科日本史研究室が所蔵する湯浅文庫には、後期水戸学を代表する儒者である会沢正志斎の書簡が380通余り存在する。これらの書簡は、会沢が水戸藩の奥右筆頭取、大納戸奉行などを務めた寺門喜太平とその息子謹(政次郎、天保2年~明治39年)に宛てて出したものである。この内、喜太平宛のものは数通で、他はすべて政次郎宛であり、その時期は弘化年間から文久3年に及ぶ。なお、会沢と寺門喜太平の妻同士が姉妹であることから、政次郎は会沢の甥にあたる。以上から、本研究の対象である会沢正志斎書簡は、何らかの理由で寺門家から流出したものと見て間違いない。

その後会沢書簡は、1952(昭和27)年に藤直幹教授によって大阪大学が購入することとなり、以来大阪大学日本史研究室が所蔵してきた。さらに、梅溪昇教授時代に大学院生であった加地宏江氏(現関西学院大学名誉教授)が翻刻を進めたものの、活字化されることなく現在に至った。本研究の第一の目的は、この加地氏の原稿を基に、『会沢正志斎書簡集』を刊行することである。

(2) 本研究では、上記の会沢書簡から得られた新たな知見を活用して、近世後期から幕末の水戸藩に関する政治史的分析を行い、戦後地方史の領域に押し込められてしまった幕末水戸藩を、中央政治の中に位置付け直す、後期水戸学の再評価を行い、会沢に関する思想史的研究が『新論』の言説分析に偏っている傾向を打破して、会沢を取り巻く思想的ネットワークを解明することも目的と

した。

(3) さらに、寺門家から会沢書簡が流出してから大阪大学が購入するに至るまでの経緯を解明することも、本研究の目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 本研究課題の目的を達成するために、すでに業者に依頼して撮影の済んでいた会沢正志斎書簡のDVDを、研究代表者・研究分担者に配布した。

(2) 研究代表者である飯塚一幸が所属する大阪大学大学院文学研究科日本史研究室の大学院生等を研究協力者として組織し、会沢正志斎書簡の翻刻・校正を進めた。現在までに研究協力者として参加したのは、後藤敦史・本井優太郎・久保田裕次・平井誠・時広雅紀・久野洋・宇垣政寛・福島彰人・前端絵未・蒲谷和敏・高岡萌・福田舞子の12名である。

(3) 研究代表者・研究分担者は、各自の専門に従い研究課題にそって、国立国会図書館・東京大学史料編纂所・茨城県立歴史館などで、関係史料・文献の収集を行った。その際、できるだけデジタルカメラでの撮影を行い、研究代表者・研究分担者間での史料情報の共有を図った。

(4) 会沢正志斎書簡から得られた新たな知見や史料情報を共有し、研究課題の進捗状況を確認し、本研究の成果を挙げるために、大阪大学で打合せ及び研究会を開催した。

(5) 本研究の目的を達成するために、研究代表者が所属する大阪大学大学院文学研究科の大学院生1名を研究支援者(特任研究員)として雇用した。

(6) 研究分担者として本研究に加わる予定であったものの、韓国の漢陽大学への就職によりはずれることになった奈良勝司氏にも、継続して本研究に参加していただき、『会沢正志斎書簡集』の編纂に協力していただいた。

## 4. 研究成果

(1) 会沢正志斎書簡については、思文閣出版から『会沢正志斎書簡集』(仮)として刊行することで同社と合意している。現在同書簡の翻刻・校正は再校が終わり、一部三校の原稿が出てきている。順調に進めば、2015年3月には刊行できる見込みである。

(2) 本研究の過程で、東京大学史料編纂所が所蔵している維新史料引継本(文部省維新史料編纂事務局旧蔵史料)の中に、141通に上る会沢正志斎書簡が含まれていること、

それらの書簡は、大阪大学大学院文学研究科日本史研究室が所蔵する湯浅文庫中の会沢書簡の一部を、昭和前期に筆写したものであることが判明した。ただし、筆写本には湯浅文庫にはない書簡が28通あり、これらも筆写本から翻刻して『会沢正志斎書簡集』(仮)に収録することにした。

なお、この結果、『会沢正志斎書簡集』に収録する書簡は、弘化元年1通、嘉永3年14

通、嘉永4年6通、嘉永5年17通、嘉永6年2通、嘉永7年・安政元年11通、安政2年4通、安政3年9通、安政4年39通、安政5年49通、安政6年56通、安政7年・万延元年56通、万延2年・文久元年69通、文久2年75通、文久3年3通、年未詳13通、総計424通に及ぶことが確定した。

(3) 会沢書簡の来歴に関しては、以下のよう  
なことが明らかになった。会沢書簡は、1952(昭和27)年に大阪大学が兵庫県芦屋市在住であった湯浅九市のコレクションを購入した中に含まれる。湯浅は岡山県浅口郡の生まれで岡山市の湯浅家を継ぎ、東京高等商業学校を卒業した後、住友銀行等に勤め、独立して有価証券売買業を営んだ人物である。ところが、東京大学史料編纂所にある会沢書簡の写本の原本は、大阪市北区在住で幕末維新期における志士の遺墨コレクターとして著名であった渡辺得次郎(大阪紙器製造株式会社専務)所有とわかった。筆写は1938(昭和13)年なので、会沢書簡は敗戦前後に渡辺から湯浅に渡ったと見てよい。渡辺得次郎のコレクションの一部は、国会図書館憲政資料室所蔵の憲政史編纂会収集文書にも「渡辺得次郎家文書」として筆写本が存在するが、その中には会沢正志斎の書簡はない。

なお、書簡の受取人である寺門謹については、1872(明治5年)に水戸で寺門塾を開いたが、茨城県から人材不足につき県政に協力するように求められ、塾を閉じて新学校の教員となったことがわかっている(『水戸市史』下巻)。しかし、それ以後の寺門謹の経歴を追うことはできず、寺門家から渡辺得次郎に会沢書簡が渡った経緯も依然として不明である。この件に関しては、今後も探索を継続する予定である。

(4) 会沢書簡の大半は、水戸在住の会沢正志斎が江戸に住んでいる弟子で甥の寺門政次郎に送ったものである。水戸徳川家は定府制をとっていて家臣団が二分されており、江戸と水戸の懸隔を防ぐために二・三日ごとの定期的な飛脚便を設けていた。会沢書簡もこの往復を利用していただことから、私信であるとともに情報探索書(風説留)の性格も有していた。そのため、必要に応じて関係者への回覧が行われている。また、会沢と寺門との間の意志疎通には国友善庵が介在していて、国友は書簡に尽くせない会沢から寺門への意思伝達についてメッセンジャーの役割を果たしていた。

現時点では、会沢書簡に対応する会沢正志斎宛寺門政次郎書簡は見つかっていないが、本書簡群を通して江戸から水戸への長期間にわたる体系的な情報活動の存在がうかがえるのである。

(5) 会沢正志斎の思想に関しては、以下の点が明らかとなった。

会沢の派閥観は、「政治的な敵と非政治的な自己」という構図の下、政治=悪という定義を付与して敵を一段下に置き、自己の政治

性を覆い隠す構造を有していた。

思想の根底に民衆への不信感に基づく身分秩序の維持があり、挙国一致的発想が見られない。

公家の無謀な攘夷論に嫌悪感を持ち、戊午の密勅降下中止への期待感を有するなど、密勅降下以前から激派と鎮派への分裂の流れが伏在していた。

書簡の内容分析はいまだ途中であり、書簡集の解題として成果を公表する予定である。

(6) 湯浅文庫中に含まれている水戸藩の儒者杉山復堂(享和元年~弘化2年)の会沢正志斎宛書簡についても翻刻を終えたが、これらの書簡は『会沢正志斎書簡集』には収めず、別途公開することにした。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計11件)

飯塚一幸、佐賀の乱後の憂国派、待兼山論叢、査読有、Vol.47、2013、1-23

飯塚一幸、『維新雑誌』の可能性、市史研究ふくおか、査読無、Vol.8、2013、64-73

飯塚一幸、高校日本史教科書の改定を巡って考えたこと、大阪の歴史教育、査読無、Vol.45、2012、3-18

村田路人、江戸時代の大和川治水と堺奉行所、フォーラム堺学、査読無、Vol.19、2013、45-83

村田路人、近世治水史研究の新たな試み - 堤外地政策から治水をみる -、歴史科学、査読有、Vol.209、2012、pp.45-62

村田路人、大和川付替の治水史的意義、大阪商業大学商業史博物館紀要、査読無、Vol.13、2012、105-111

村田路人、河村瑞賢の治水事業、学士会会報、査読無、Vol.894、2012、46-51

村田路人、幕末期大坂周辺地域の触伝達 - 將軍家定死去時の「憤み」関係触を例に -、適塾、査読無、Vol.44、2011、57-63

宇野田尚哉、「ヂングレ論争」覚え書き、論潮、査読無、Vol.8、2014、144-147

宇野田尚哉、特集被爆体験とその表象趣旨説明、日本学報、査読無、Vol.32、2013、1-4

宇野田尚哉、島根県立図書館所蔵「桃家資料」: 解題と目録、松江市史研究、査読無、Vol.3、2012、87-108

[学会発表](計2件)

飯塚一幸、地域社会における近代法の受容、歴史学研究会、2014、慶應大学

飯塚一幸、地域社会の変容と地方名望家、大阪歴史科学協議会、2013、大阪市西区民センター

[図書](計7件)

飯塚一幸、村田路人他、実教出版社、日本史B、2014、383

飯塚一幸、摂津市、新修摂津市史資料集  
昭和 28 年台風 13 号災害写真集、  
2013、66  
飯塚一幸他、思文閣出版、吉田清成関係  
文書五書類編 1、2013、567  
飯塚一幸他、大阪経済大学日本経済史研  
究所、杉田定一関係文書史料集第二巻、  
2013、350  
飯塚一幸他、大阪大学出版会、グローバ  
ルヒストリーと帝国、2013、303  
飯塚一幸他、有志舎、講座明治維新第 5  
巻立憲制と帝国への道、2012、257  
飯塚一幸他、京丹後市、図説京丹後市の  
歴史、2012、200  
飯塚一幸他、千葉大学文学部史学科菅原  
研究室、丹後国加佐郡上安久村安久家文  
書目録第五集、2012、131

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

飯塚 一幸 ( IIZUKA , Kazuyuki )  
大阪大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号： 5 0 2 5 9 8 9 2

### (2) 研究分担者

村田 路人 ( MURATA , Michihito )  
大阪大学・大学院文学研究科・教授  
研究者番号： 4 0 1 4 4 4 1 4

### (3) 研究分担者

宇野田 尚哉 ( UNODA , Shouya )  
大阪大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号： 5 0 3 2 4 8 9 3